



# S氏の冒険日記 2

---

笑ってはいけない状況下で  
の購読は避けて下さい。

香亭 咲

---

## 第4話 「何しに来たの？」の巻

神奈川支店は土曜日（本来は休み）だというのに活気にあふれていました。

私は知り合いも多かった為、到着と同時に話しかけられ、

S氏を構ってられませんでしたが、

彼は、入口付近でブーツとしたまま

「キャンプですか？」

などと、若い人に話し掛けられ照れ笑いをしておりました。

会議までは まだ時間がありましたので、ひとしきり談笑したあと、

仕事の邪魔をしてもいけないと会議室に着席しようとしたのですが

ここでもS氏はリュックを背負ったまま着席しようとして、

背もたれに押されてつんのめりそうになり、

若い人達に、また～・・・挨拶代わりにギャグかますじゃないですか・・・

みたいな笑いをとっておりましたが

天然ぼけである事を知っている私にとっては、

（おいおい・・・頼むからこれ以上恥かかすなよ・・・）

と冷や汗が出る思いでした。

S氏のペースに巻き込まれてはいけないとばかりに、

真面目モードに切り替えようとして

会議資料や筆記用具を机に並べていたのですが・・・

「あっ・・・」

というS氏の小声に振り返ると、彼はもじもじしながら頭をかきつつ・・・

「山根さん・・・すみません・・・筆記用具貸して下さい。」

と言うではありませんか。

「はあ？・・・」 こいつ何しに来たんだろうと思いつつ、

2本あったシャーペンの内1本を渡しながら

「会議資料は？」と聞くと、全く悪びれもせず

「すみません。忘れました。」

とにこにこしております。・・・

「なんでだよ！この前渡したろが！」

「すみません。朝ぎりぎりだったもので・・・」

「・・・ノートは？」

「すみません。忘れました。」

「え？じゃあ会議の準備は何にも無し？嘘だろお前？・・・

あれっ？じゃあお前のリュックは何が入っている訳？」

よっぽどS氏からリュックをぶんどって中身を出してやろうと思いましたが

体調不良で会社を休む時も、母親が「今日は具合が悪いので休ませます。」

と電話してくるような・・・いったいお宅の息子はいくつなんだよというような家庭で、

しかもこの話してから5年後の、40歳の今でも自分の事を僕と呼ぶS氏の事・・・

リュックからでっかいぬいぐるみでも出てきそうで

（ホントにこの時はそう思いました。）

恐くなり「お前な・・・今日は お前が主役なんだぞ・・・俺はオブザーバーで付録なんだよ

ふ・・・ろ・・・く ！・・・解る？・・・この後はお前がうちの代表として喋るんだよ！！」

と廻りにばれないように、小声で注意するのがやっとでした。

## 第5話 「雑踏の中へ」の巻き

---

やがて会議が始まり、S氏を紹介したあとに、それぞれの議題について討議が進みましたが、新委員長S氏に対する質問があると、案の定返事が出来ずに私の顔を覗き込むだけ・・・仕方が無しに私が回答する事に・・・

**私は6年委員長をしておりましたので、特に回答にも困ることはありません。**

ひとしきり議論していると、途中S氏が退席している事に気がつきましたがそれどころでは無かったので、そのまま会議を続け、やがて30分・・・何やってんだろあのアホは？・・・と思っている頃に戻ってきました。

やがて途中休憩になったので、退座理由を問い詰めると、痛み止めの薬を飲んでましたとの事・・・

「何で薬飲むのに、30分も40分もかかるんだよ？」

「すみません。うんちもしてました。」

とまるで小学生の保護者になったような錯覚に打ちひしがれ、もはやうんちでも40分は長いだろという素朴な疑問すら消えうせて頭がくらくらしてきました。

つづく

## 第5話 「雑踏の中へ」の巻き

前話では、会議を中座して薬を飲んだだけあって、会議の後半、S氏は、歯の痛みから開放されて気持ち良くお眠りあそばし、椅子の下で私が蹴飛ばしたときだけ、ふんっ！とか訳の解からない奇声とともに目を覚ましましたが、上下のまぶたの磁力には勝てそうも無く、無理して目を開けようと眉毛が吊り上り、片目が白目で、片目が薄目を開けたほとんど放送出来ないようなあぶない形相になっておりました。結局、会議の内容など全く解からず、発言も一言も無く、メモも取らずで・・・ほんとに何しに来たのかなこの先生はとっと思ってしまいました。

その後、新委員長の為にセッティングされた飲み会も、会場に着いてから、私のスーツのすそを引っ張って、歯が痛いので帰りますと言う始末で・・・

「はあ？何でだよ？お前の為にセッティングしてくれたんだぞ？」

これに出なきゃお前ホントに何しに来たんだか解かんないじゃん？」

「でも歯が痛くて・・・眠れなかったもんで頭もボーッとしてるし・・・」

「思いつきし寝てたじゃん・・・それにボーッとしてるのはいつもの事じゃねーかよ・・・」

「ひっひっひ・・・山根さん冗談うまいんだから・・・」

「じよ・・・」まさに“ぬかに釘”状態でまったく手応えが無く、力が抜けてしまい・・・どうでも良くなって

「・・・もう・・・いいよ・・・帰んな・・・お前」

と言ってしまいました。

ただS氏の後ろ姿を見ている内に、今日は1日怒ってばかりだったな・・・と何となく後味が悪くなり、最後ぐらいやさしい言葉のひとつもかけてやろうかと思っはみたのですが、散々ひどい目にあつたものですから、自分の中で、やさしい気持ちと冗談じゃねーよという気持ちが、高速回転で議論を始めてしまひまして・・・



(歯が痛いのはさ・・・誰だって我慢出来ないじゃん。  
痛くて眠れなかったから居眠りして、朝起きれなかったから  
時間が無くて忘れ物したと・・・そういう事だろ?)  
(でもリュックに訳解んない物いろいろ詰める時間はあった訳じゃんね?)  
(そうなんだよな・・・でもお出かけセットみたいに、  
リュックだけはあらかじめ用意してあんのかも?)  
(何だそりゃ・・・だいたいあのリュックは許せんだろ?)  
それでなくてもずんぐりむつくりの体型に、丸くて大きいリュックは、  
横浜中華街のネオンを浴びて七色テントウムシみたいになっております。  
(いや・・・まあ 本人のセンスの問題だから・・・)  
(じゃあ会議はどうすんの?前半抜けてて後半寝てて何一つ頭に入ってないよ?  
メモも取ってないし、一言も発言してないよ?・・・)  
(そりゃ結果的に俺が付いてきたからじゃん。  
俺が居れば発言しなくて済むと思ってんだよ・・・  
だいたいあいつが発言とか苦手なの初めから解かってた事で、  
そんな人に投票する方が悪いんじゃない・・・)  
・・・そりゃそうだけど・・・と納得しようとしてもかなり無理があります。  
(じゃスパゲッティはどうすんだ。思いつきり恥ずかしかったんだぞ・・・)  
(ま・・・うどんだったと思えば・・・ね?)  
(冗談じゃないよ!ずずずと、ずずずの間に、ふしゆるふしゆるとか  
訳解んない音までしてたんだぞ!ホラー映画じゃないっつーんだよ!!・・・)  
などと思ってる間にS氏が遠くへ行きそうになったので、  
「おい!S島!」と、とりあえず声をかけましたが、  
自分の中では、何て声を掛けるか、まだ迷ったままです。  
S氏が振り返りました。  
「早めに 歯医者行けよ!」  
と声を掛けると、S氏は一瞬おこられると思ったのか、  
私の言葉に嬉しそうな笑顔を見せました。  
しかし、その笑顔を見た瞬間、  
やはり迷っていた怒りの方の気持ちが吹き出してしまって  
「ついでに 脳みそも掘ってもらえよ!」  
という言葉が思わず出てしまいましたが、  
雑踏の中で良く聞こえなかったのか、  
S氏は嬉しそうに、手をちょっと上げて挨拶をすると、これから更に賑わおうとする  
横浜中華街の人ごみの中へ消えていきました。  
私も、最後の一撃が届かなかった事を、  
(・・・くそ～!聞こえなかったか!)と悔やみつつ、  
仕方が無いので、歯医者に「またあんたか・・・」  
とあきれられているS氏の姿を想像しながら、  
皆の待つお店へと向かうのでありました。

つづく